

ローミングクライアントのトレースログの有効化

内容

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[Windows](#)

[MacOS](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco Secure Client for Umbrella製品の詳細な「トレース」ロギングを有効にする方法について説明します。

背景説明

状況によっては、より詳細な「トレース」ロギングを有効にするようCisco Umbrellaサポートから要求されることがあります。トレースロギングを有効にするには、フラグファイルを作成し、このドキュメントで説明するディレクトリのいずれかに配置します。Umbrellaサポートはファイルを提供するか、または自分で作成することができます。

Windows

ローミングセキュリティモジュールを使用したCisco Secure Client:

```
C:\ProgramData\Cisco\Cisco Secure Client\Umbrella\data
```

自分でファイルを作成する場合は、「trace」という語を引用符なしで含め、loglevel.txtやloglevel.flag.txtではなくloglevel.flagとして保存する必要があります。

ディレクトリにloglevel.flagファイルを配置したら、ローミングクライアントサービスを再起動して有効にしてください。

ファイルを.txt以外の形式で「保存」しないでください。.rft .odtなどの特定の形式では、不要な情報が作成され、トレースロギングが有効になりません。

MacOS

force_log_level.plistを次のディレクトリに配置します。

ローミングセキュリティモジュールを使用したCisco Secure Client:

```
/opt/cisco/secureclient/umbrella/data
```

ファイルを自分で作成する場合は、必ず `force_log_level.plist` としてファイルを保存してください。

ファイルの内容は次のように表示されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE plist PUBLIC "-//Apple//DTD PLIST 1.0//EN" "http://www.apple.com/DTDs/PropertyList-1.0.dtd">
<plist version="1.0">
<dict>
<key>logLevel</key>
<string>trace</string>
</dict>
</plist>
```

ディレクトリにフラグファイルを配置したら、ローミングクライアントサービスを再起動して有効にしてください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。